

令和6年2月26日 教育委員会報告事項についての質疑応答（要旨）

（報告）

ア 令和6年度浜松市立小学校及び中学校の学級編制について

※教職員採用管理担当課長から資料に基づき説明

質疑応答なし

イ 「令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」浜松市の結果（概要）について

※指導課長から資料に基づき説明

（安田委員）小学校と中学校の調査結果の差をどう分析しているか。部活動との関連についてはどう考えるか。

（指導課長）本市では児童生徒質問紙の調査結果において「体育の授業は楽しい」と回答した子供の割合が高く、特に中学生は全国に比べて肯定的な回答をした子供の割合が高かった。専門性が高い体育の授業改善に取り組んだ成果と考えている。小学校においても専門性の高い授業が展開できるよう中学校との連携を図りながら「主体的対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善に取り組んでいく。

（田中委員）小学校の校庭を開放することで子供たちの体を動かす時間が増え、体力が向上するのではないかと思う。

（鈴木委員）調査結果の全国的な順位はどうなっているか。

（指導課長）中学校はかなり上位に位置しており、特に女子は全国トップクラスの順位である。小学校は、中間からやや上くらいの順位である。

（黒柳委員）今回調査した小学生と中学生は同じ調査対象の子供ではないので、今回の調査対象の中学生が小学生だったときの結果と比較しないと、小学校から中学校へ成長するなかで身についた能力はわからないのではないか。

（指導課長）今回調査した中学生が小学生だった時は、コロナ禍で調査が実施されず、比較できる調査結果が無い。

（安田委員）コロナ以前も小学生の調査結果は平均程度の結果だが、中学生の調査結果は

上位という結果であった印象がある。また、同じ中学生であっても「体育の授業は楽しい」という設問において男女で調査結果に差があるが、これは全国的な傾向なのか。

(指導課長) 全国的な傾向である。小学校に関しては、以前はソフトボール投げの調査結果に課題があったが、現在は改善がみられる。